

羽島市スポーツ推進計画 中間見直し

岐 阜 県
羽 島 市

目次

第1章	計画の策定にあたって	1
1	計画策定の趣旨と目的	1
2	計画の位置づけ	2
3	計画の期間	2
第2章	本市のスポーツを取り巻く現状	3
1	スポーツ団体等の状況	3
2	市内の主なスポーツ大会	8
3	市民等の意識調査結果	11
第3章	計画の基本的な考え方	24
1	基本理念	24
2	基本目標	25
3	計画の体系	26
第4章	施策の展開	27
1	地域スポーツの推進	27
2	学校体育の推進	30
3	障がい者スポーツの推進	34
4	競技スポーツの推進	36
5	スポーツによる地域振興	39
6	スポーツ環境の整備	41
第5章	計画の推進	45
1	数値目標	45

1 計画策定の趣旨と目的

近年、少子高齢化や情報化の進展、地域社会の空洞化や人間関係の希薄化が進むなど、国内を取り巻く社会環境や価値観が急激に変化している中、スポーツへの期待はますます高まってきています。

国では、社会の現状や環境の変化を踏まえ、スポーツ界における新たな課題に対応するため、スポーツ振興法が 50 年ぶりに全面改定され、新たにスポーツ基本法が、平成 23 年 8 月に施行されました。

同法の施行に伴い、平成 24 年にはスポーツ基本法の理念を具現化した「スポーツ基本計画」が策定され、この計画では「スポーツを通じて全ての人々が幸福で豊かな生活を営むことができる社会」を創出するため、「年齢や性別、障がいなどを問わず、広く人々が関心、適性などに応じてスポーツに参画することができる環境を整備すること」といった政策課題に対応した目標が設定され、国、地方自治体、スポーツ団体などが連携し、スポーツの推進に取り組み、スポーツ立国の実現を目指すことが位置付けられました。

岐阜県では、国の「スポーツ基本計画」や「岐阜県清流の国スポーツ推進条例」の理念を具現化し、社会、経済、県民生活や意識の変化に対応するため、平成 27 年 3 月「清流の国ぎふスポーツ推進計画」を策定し、県民がスポーツに親しみ、スポーツを楽しみ、スポーツを支える活動に参画することを支援し、競技団体、学校、市町村、県及びスポーツに関係するあらゆる団体がそれぞれの立場でスポーツに関する活動を進めています。

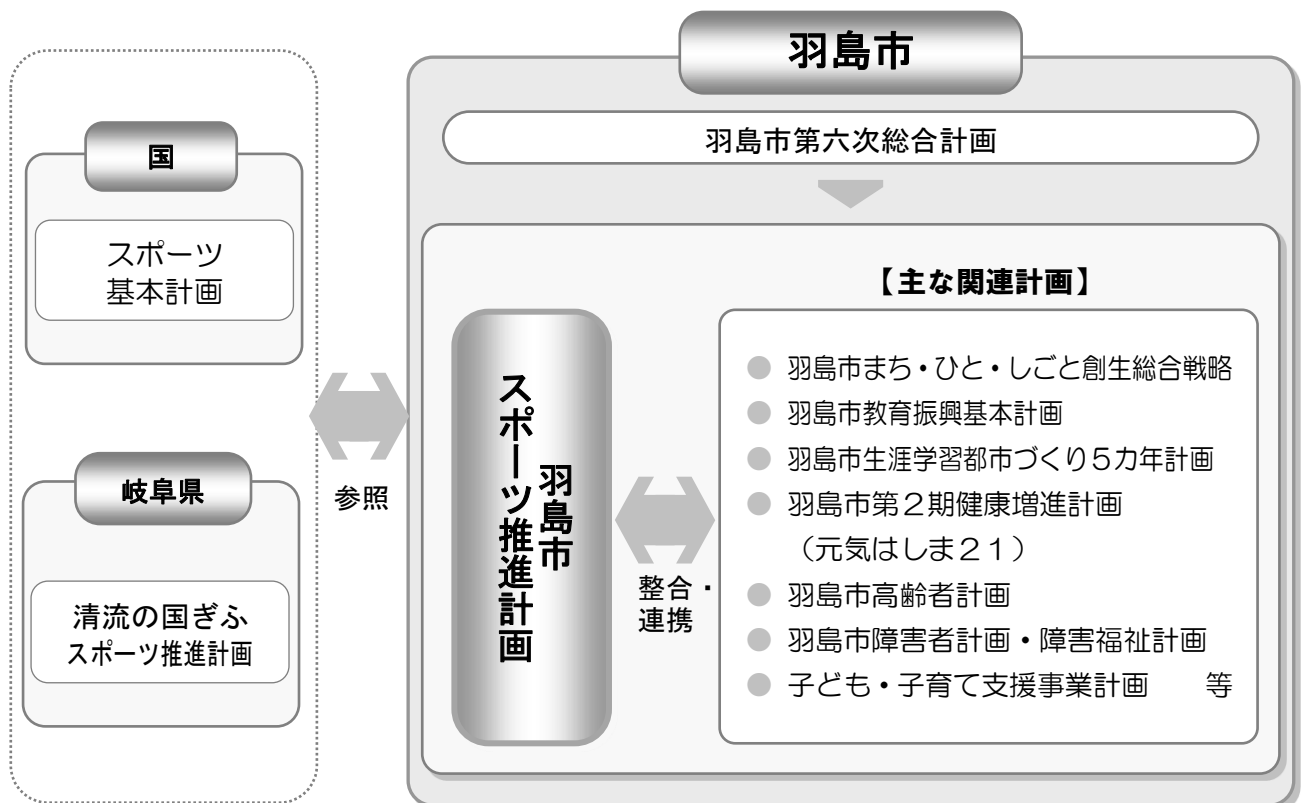
本市においては、市民のスポーツを通じた健康な心身づくりと明るく活力に満ちた社会の形成を目指し、地域における生涯スポーツの充実、学校体育・スポーツの充実、スポーツを支援する環境の整備・充実に向けて取り組んできました。

こうした経過を踏まえ、国の基本計画や岐阜県の計画を参照するとともに、本市のアンケート調査結果等より把握する市民のスポーツ活動の状況と、社会状況の変化や地域特性からみられる課題に対応するため、平成 28 年度から 10 年計画となる「羽島市スポーツ推進計画」を策定し、令和 2 年度において、中間的な見直しを行い、改訂版を作成しました。

2 計画の位置づけ

本計画は、国の「スポーツ基本計画」や岐阜県の「清流の国ぎふ スポーツ推進計画」を斟酌しつつ、上位計画である羽島市第六次総合計画と整合を図るとともに、本市におけるスポーツ推進の基本的な方向性を示すものです。

そして、学校教育、生涯学習や健康づくり、高齢者・障がい者福祉、子ども支援等の関連部署と一体となって検討するなど連携を密にし、市民や関係団体等が共通認識を持ち、地域社会全体で生涯スポーツ社会の実現に向けて取り組むための指針となるものです。



3 計画の期間

計画の期間は平成 28 年度から令和 7 年度までの 10 年間とします。また、令和 2 年度において中間的な見直しを行いました。

1 スポーツ団体等の状況

○ 羽島市スポーツ推進審議会

平成 13 年 4 月に、スポーツ振興法（平成 11 年）第 18 条第 2 項及び第 5 項の改正並びに規定に基づき、羽島市スポーツ振興審議会が設置されました。平成 23 年には、スポーツ振興法が改正され、スポーツ基本法（平成 23 年法律第 78 号）第 31 条の規定に基づき、羽島市スポーツ推進審議会と名称が変更されました。本審議会は、少子高齢化、生活の利便化、娯楽の多様化など社会環境の変化に伴う中でのスポーツの在り方について考えるとともに、小中学校の体力の低下や成人の生活習慣病予防、高齢者の健康維持の問題とかかわりながら、健康志向による生涯スポーツの在り方について協議しています。

○ 羽島市スポーツ推進会議

羽島市生涯スポーツ振興会議と羽島市体育振興会連絡協議会が平成 28 年度より統合され、羽島市スポーツ推進会議として生涯スポーツ、地域スポーツの振興を継続して行っています。スポーツ推進委員と各地区体育振興会、総合型地域スポーツクラブが連携し、地域住民の多様なニーズに応え、誰もが気軽に運動できる環境づくりをめざしています。主な活動として、羽島市ファミリースポーツ広場や市民ソフトボール大会、ソフトバレーボール大会などの普及に努めてきました。現在、ファミリースポーツ広場は三地区に分かれて開催され、より参加しやすい形態へと改善されています。

○ 羽島市スポーツ推進委員会

スポーツ推進委員は、地域住民のスポーツに関する指導助言に適する人を町自治委員会及び各地区コミュニティセンターが推薦し、教育委員会が委嘱しています。近年の女性スポーツの普及振興に伴い、昭和 57 年から女性スポーツ推進委員の委嘱を進めています。現在 36 名が活動しています。

地域の実態や住民のニーズに合わせ、多種目、多世代、多志向への対応をめざしてスポーツを推進する役割を求められており、市のスポーツ振興事業に参加すると共に、地域に根ざした住民の自主的、自発的な日常的スポーツを推進しています。また、女性スポーツ推進員の加入に伴い、中高齢者と女性スポーツの推進にも重点をおいています。これを推進していくために、専門部会として企画部、研究発表部、資料情報部、指導研修部及び女性研修部を設けて活動を展開しています。

○ 特定非営利活動法人羽島市スポーツ協会

特定非営利活動法人羽島市スポーツ協会は、市制施行の年（昭和 29 年）に陸上競技、軟式野球、柔道の 3 連盟を中心に組織され、以後市内アマチュアスポーツの振興と共に加盟団体が増加し、現在は 24 団体が加盟しており、平成 25 年 3 月に特定非営利活動法人の法人格を取得しました。

この 24 団体は、各々の団体の事業計画に基づき、市民参加のスポーツ事業並びにチャンピオンシップ大会の開催を実施しています。

また、市民スポーツの代表として親しまれている「市民ソフトボール大会」の運営、各種スポーツの底辺拡大のためのジュニアスポーツ教室の開催、多数の市民が参加できるスポーツ行事としての、毎年秋季に各種団体が多種目にわたって自主的に運営する「市民体育大会」等が実施され、「競技力の向上」と「生涯スポーツの推進」を柱に諸事業を積極的に展開しています。令和 2 年度より「羽島市体育協会」から「羽島市スポーツ協会」へと名称を変更しています。

【加盟団体名】

陸上競技協会、軟式野球連盟、柔道連盟、硬式卓球連盟、バレーボール連盟、剣道連盟、ソフトテニス連盟、クレー射撃協会、弓道連盟、ソフトボール協会、バスケットボール連盟、アーチェリー（休部）、水泳（休部）、バドミントン連盟、空手道連盟、サッカー連盟、レスリング連盟、テニス協会、中学校体育連盟、少林寺拳法連盟、ゲートボール協会、スキー・スケート連盟（休部）、グラウンド・ゴルフ協会、なぎなた協会、ボウリング連盟、スポーツ少年団本部

○ 羽島市レクリエーション協会

市内におけるレクリエーション総括団体として、「楽しさ」・「遊び」・「笑顔」を基調とした「一人ひとりの豊かなライフスタイルの実現」に向けて、レクリエーション活動に取り組み、レクリエーションの楽しさや生涯スポーツの重要性を広く市民に伝えていくことを目的に、平成 22 年度に設立し運営しています。

【加盟団体名】

羽島市野球リーグ連盟、羽島市グラウンド・ゴルフ協会、羽島子ども太鼓クラブ、岐阜県スポーツウエルネス吹矢協会ぎふ羽島知風館支部、社会福祉法人岐阜羽島ボランティア協会、羽島市キンボールスポーツ連盟、羽島市子ども会育成協議会、岐阜聖徳学園大学教育研究会かっぱの会、羽島市硬式テニス連盟、羽島市身体障害者福祉協会、岐阜県民踊連盟、羽島市ミニテニスクラブ、羽島市スポーツ少年団、羽島市福祉レクリエーションクラブ、岐阜県フォークダンス連盟、羽島市レクリエーション・インストラクター連絡会、岐阜県ターゲット・バードゴルフ協会、羽島市ジュニアリーダークラブOB会、羽島市高齢者体操クラブ、岐阜県パターゴルフ協会



○ 総合型地域スポーツクラブ

文部科学省は、平成 23 年 6 月、「スポーツ振興法」を 50 年ぶりに全面改正し、「スポーツ基本法」を制定しました。県においても、平成 26 年 3 月に、清流の国ぎふスポーツ推進計画を策定しました。その中でも、地域スポーツの推進、多様なスポーツの機会の確保のための環境整備など、総合型地域スポーツクラブの担う役割は大きいです。

本市においては、平成 15 年度に羽島中学校区に「はしまモアスポーツクラブ」、平成 19 年度に中島中・桑原中学（現桑原学園）校区に「はしま南部スポーツ村」、平成 24 年度に竹鼻中、中央中学校区に「はしまなごみスポーツクラブ」が設立され、羽島市全域において、総合型地域スポーツクラブの活動ができるようになりました。

名称	はしまモアスポーツクラブ	はしま南部スポーツ村	はしまなごみスポーツクラブ
設立校区	羽島中学校区	桑原中学校区・中島中学校区	竹鼻中・中央中学校区
クラブ理念	いつでも、どこでも、だれもがスポーツに親しめる環境づくり 健康・ふれあい・夢感動	『スポーツ大好き輪・和・話!』 ・小中学生に多くの遊びやスポーツができる環境づくりを基盤とした青少年健全育成 ・スポーツボーダレスゾーンの実現	1. だれもがいつでも・どこでも・いつまでもスポーツ・レクリエーションを楽しめる 2. 会員・指導者・運営スタッフが、共に支えあい育てることができる。 3. 会員相互が夢や感動を与えあい、地域の活性化に役立つ。 4. 子どもたちが仲間と協力し、たくましく生きる力を育むことができる。 5. 世代間の交流で地域のコミュニケーションを高める。
運営に携わる役員等	スポーツ推進委員、三町体育振興会、コミュニティセンター、社会体育指導者、スポーツ少年団指導者、小中学校、PTA関係者、ボランティア有志等		
クラブ事務局所在地等	〒501-6207 羽島市足近 7-455 羽島中学校体育館内 Tel (058) 393-2815	〒501-6314 羽島市中中町城屋敷 318-1 下中コミュニティセンター内 Tel (058) 398-1020	〒501-6244 羽島市竹鼻町丸の内 6 丁目 160 羽島市柔剣道道場内 Tel (058) 322-2161
会員数 令和 2 年 10 月	719 名	202 名	163 名
主な事業 (今後の予定を含む)	○各種スポーツ教室 ○小中学生を中心とした一貫指導クラブ ○はしまモア杯交流大会 ○夏休み水泳教室 ○はしまモアスポーツ広場 ○一流指導者実技教室 ○指導者研修会 など	○各種スポーツ教室・イベント ○小中学生を中心とした一貫指導クラブ ○南部スポーツ村杯交流大会 ○スポーツイベント祭 ○体験・観戦教室（盆踊り・プロ観戦） ○スーパー実技教室 ○講演会 など	○各種スポーツ教室・イベント ○小中学生を中心とした一貫指導クラブ ○なごみ杯交流大会 ○指導者研修会 ○はしま中部ファミリースポーツ広場 など

市民の生活スタイルの変化やスポーツ志向が多種多様化している現在、総合型地域スポーツクラブは、地域のニーズをとらえ魅力あるスポーツプログラムを提供することが可能です。

スポーツは、言うまでもなく計り知れない教育効果をもっています。特に青少年では運動や遊びが自己実現や社会性の発達を促し、人間としての成長をより確かなも

のにします。適度な運動の実施により、心身の健康を保ち、生き甲斐や幸福感等を得ることができるような総合型地域スポーツクラブの役割が期待されています。

○ 羽島市スポーツ少年団本部

スポーツ活動を通して、人間形成を図るスポーツ少年団は、現在 9 団が加盟しています。

スポーツ少年団本部は、少年の健全育成の目標が達成できるように各種の競技大会並びに各種研修会、イベントを実施しています。

【加盟団体】

小熊・足近スポーツ少年団、正木スポーツ少年団、竹鼻スポーツ少年団、羽島中央スポーツ少年団、福寿スポーツ少年団、はしま南部スポーツ少年団、羽島市空手道スポーツ少年団、羽島市剣道教室スポーツ少年団、ちゅうぶサッカースポーツ少年団

【各種本部事業】

事業名	時期
リーダー研修会	9月
新春駅伝競走大会	1月
スポーツ指導者資質向上研修会 (旧 ACP・認定員研修会)	2月



2 市内の主なスポーツ大会

○ 羽島市ファミリースポーツ広場

平成元年に結成された「羽島市生涯スポーツ振興会議（現羽島市スポーツ推進会議）」が、市民の生涯スポーツの普及・振興を市民の手により推進しようと「羽島市ファミリースポーツ広場」を企画・運営しました。全市民を対象に家族みんなで軽スポーツを楽しみ、地域でも軽スポーツを拡げていただこうと願ってきました。平成22年度からは、より市民に身近なところで活動をしていくことが必要と考え、三地区で活動を始めるようになりました。文部科学省が推進している「総合型地域スポーツクラブ」と連携をして、地域住民がよりスポーツに親しんでもらえる企画・運営を進めています。

【北部地区：はしまモアファミリースポーツ広場 場所：羽島中学校屋内外運動場】

多種類の軽スポーツが羽島中学校の運動場、体育館で行われています。さまざまな年代の参加者があり、大変盛り上がっています。スポーツをより身近に感じてもらえるようなイベントをこれからも企画していきたいと考えています。

【中部地区：はしまなごみファミリースポーツ広場 場所：竹鼻中学校屋内運動場】

グラウンド・ゴルフ、50m走、ドッジビー、ポッチャ、ふらば～るバレーボール、カロリング等のスポーツやレクリエーションが開催されています。生涯スポーツという観点からも今後も積極的に軽スポーツの普及や地域スポーツの活性化を進めていきたいと思っています。

【南部地区：なんスポフェスティバル 場所：桑原学園屋内外運動場】

地域住民が運営し、ボランティアとして中学生も参加。地域でスポーツ文化をつくっていく活動の1つとして行われます。武道場ではヨガ体験、屋内では楽しく玉入れ、キックターゲットなど、屋外でもグラウンド・ゴルフやドッジボールが開催され、三世代の誰もがいつでも体を動かすことができるスポーツ環境づくりに努めていきたいと思っています。

○ 羽島若獅子駅伝競走大会

平成 25 年度まで羽島ライオンズクラブの主催により開催されていた大会は、平成 26 年度より大会実行委員会を組織して、地域の活性化を図り市民のスポーツに対する関心を高めると同時に、青少年の健全育成を願って開催されています。

市内全域を図るコースを設定し、地域・職域の代表、高校生、中学生に参加を呼びかけ、多くの団体の協力を得て実施されている大会です。令和元年度は、56 チームの参加で行いました。羽島市で開催される駅伝として、全市民の関心を集め、伝統的な誇りある大会となっています。

○ 羽島市ソフトバレーボール大会

この大会は、平成3年度より羽島市生涯スポーツ振興会議（現羽島市スポーツ推進会議）の主催、羽島市スポーツ推進委員会の主管で行われている大会です。

生涯スポーツの一つとして普及した軽スポーツで、各地区のクラブ・サークルとして活動している市民の方々に集まっていたいただき、互いの親睦と競技力の向上を図る目的で行われています。各部門に分かれて大会を行い、参加チーム数や試合内容において徐々に充実してきており、地域における活動のますますの普及・振興を図っていきます。

○ 羽島市民体育大会

羽島市におけるスポーツをいっそう振興し、市民の健幸増進・体力の向上を図り、明るく豊かな市民生活に寄与することを目的として、羽島市スポーツ協会主催により加盟団体が毎年秋季を中心に開催しています。

総合開会式を行った後、各団体ごとに幅広く市民が参加できるよう開催方法、内容を工夫し市内の体育施設等を使用し自主運営しています。

令和元年度は体育協会（現スポーツ協会）加盟団体 18 種目において開催されました。

○ 羽島市民ソフトボール大会

昭和 40 年に岐阜県で開催された国民体育大会において、羽島市はソフトボール競技が開催され、それを契機に羽島市民ソフトボール大会が開催されるようになりました。

市民スポーツとして、市民が気軽にスポーツに参加できる機会の提供や市民の交流、ふれあいの場を提供し、生涯にわたる生きがいづくりの推進を目的として開催されています。ピーク時には自治会単位にチームが編成され約 250 チームの参加がありましたが、近年は約 20 チーム前後の参加にとどまっています。そのため、年 2 回の開催のうち、秋季は市民交流ソフトボール大会として市民が幅広く参加できるよう工夫をして開催しています。

○ 羽島市チャレンジデー

毎年 5 月最終水曜日に住民参加型のスポーツイベントを実行委員会にて開催しています。チャレンジデー当日に、市内で 0 時から 21 時までの間に 15 分以上継続して運動やスポーツを行った人の参加率を各自治体間で競い合います。軽スポーツやレクリエーションスポーツなど、体を動かす運動なら何でも認められ気軽に参加できます。

当日には、市内の体育施設を無料開放し、市内各所でレクリエーションスポーツ等の体験会が開催されチャレンジデーへの参加を促すとともに市民の運動をするきっかけ作りをしています。

羽島市がこのイベントに参加して第 4 回目の平成 26 年度には、参加者が 35,273 人、参加率 51.4%でした。そして令和元年度には、参加者が 41,632 人、参加率は 61.3%まで増加しました。



3 市民等の意識調査結果

○ 調査の目的

スポーツ推進に対する市民の意識やニーズ等を基に羽島市スポーツ推進計画策定の基礎資料として、調査を実施したものです。

○ 調査対象

一般：羽島市在住の 1,500 人を無作為抽出

小・中学生：市内の小学6年生 341 人、中学3年生 260 人

教職員：市内の小中高校の教職員 136 人

スポーツ関係者：羽島市体育協会加盟団体 24 団体×10 人=240 人

スポーツ推進委員 34 人・計 274 人

○ 調査期間及び調査方法

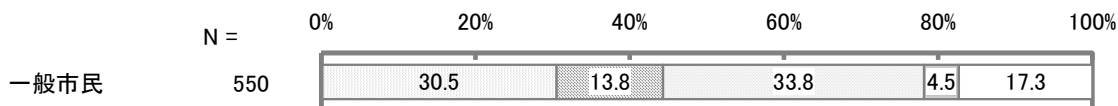
平成27年7月6日から平成27年9月14日 郵送等による配布・回収

○ 回収状況

	配布数	有効回答数	有効回答率
市民	1,500 通	550 通	36.7%
小学生	341 通	341 通	100.0%
中学生	260 通	260 通	100.0%
教職員	136 通	136 通	100.0%
スポーツ関係者	274 通	126 通	46.0%

① 参加したいイベント

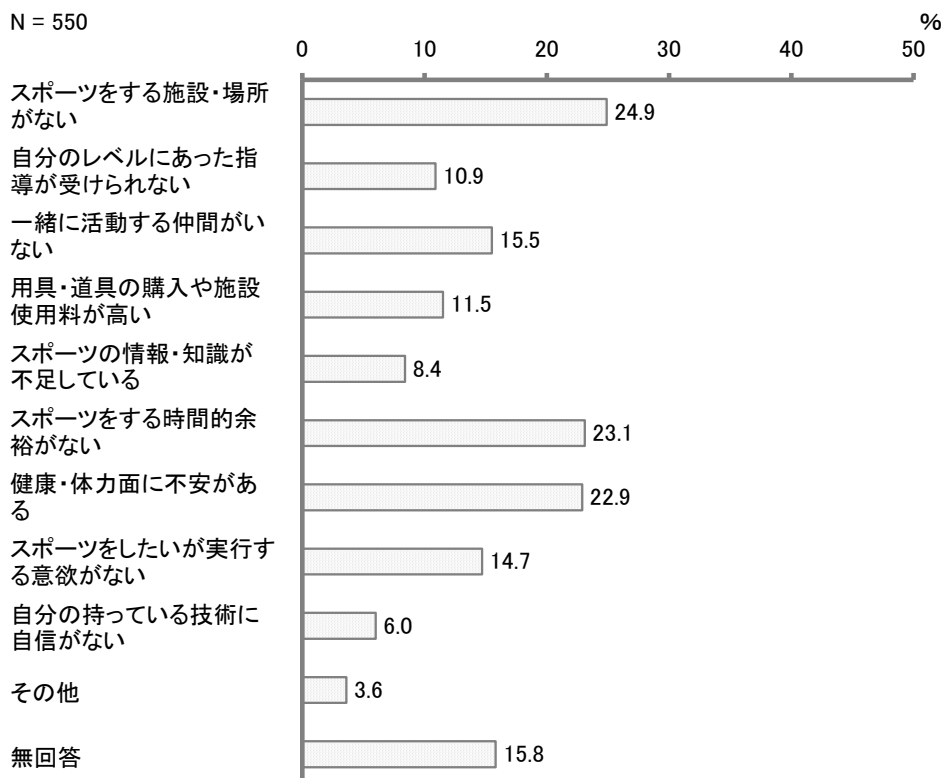
「誰もが参加できるレクリエーション的なイベント」の割合が33.8%と最も高く、次いで「健康増進のためのイベント」の割合が30.5%、「初心者のためのイベント」の割合が13.8%となっています。



- 健康増進のためのイベント
- 初心者のためのイベント
- 誰もが参加できるレクリエーション的なイベント
- 各種競技別の順位を競い合う大会
- 無回答

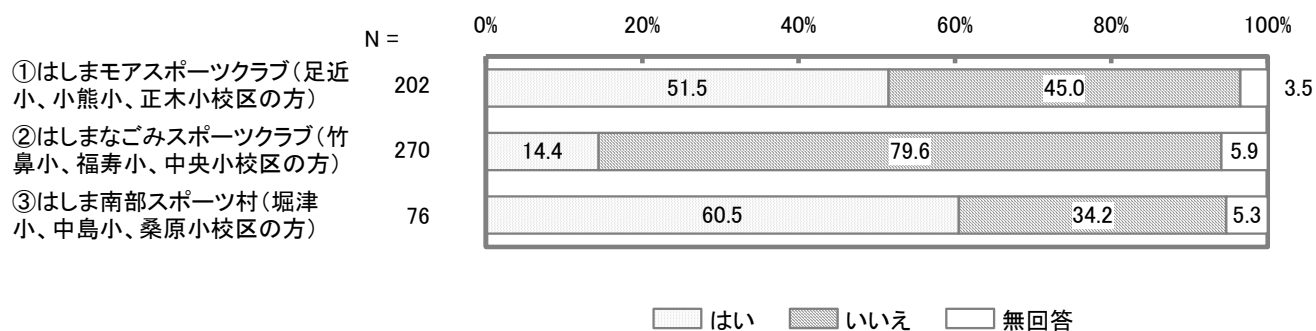
② スポーツをする時に問題になると思うこと（一般市民）

「スポーツをする施設・場所がない」の割合が24.9%と最も高く、次いで「スポーツをする時間的余裕がない」の割合が23.1%、「健康・体力面に不安がある」の割合が22.9%となっています。



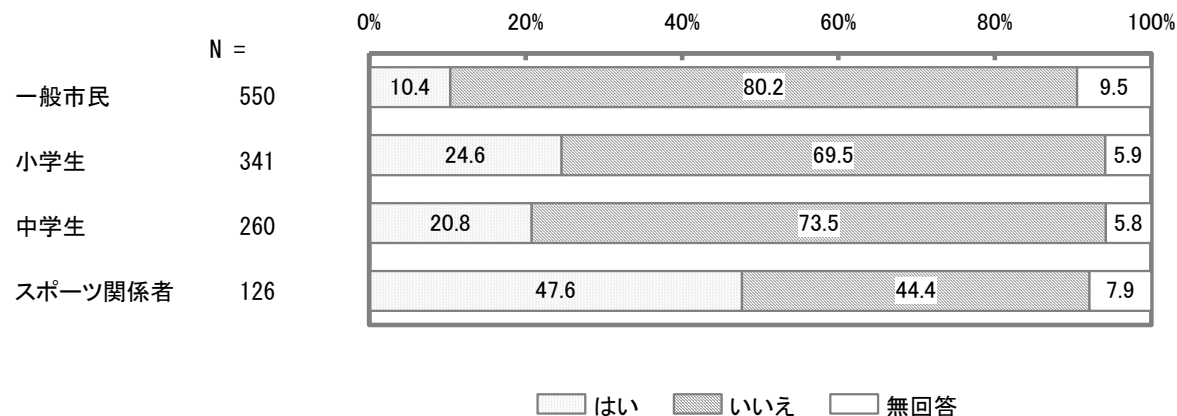
③ 総合型地域スポーツクラブの認知度（一般市民）

①はしまモアスポーツクラブ、③はしま南部スポーツ村では「はい（知っている）」の割合が高く、5割以上となっています。一方、②はしまなごみスポーツクラブでは「いいえ（知らない）」の割合が高く、約8割となっています。



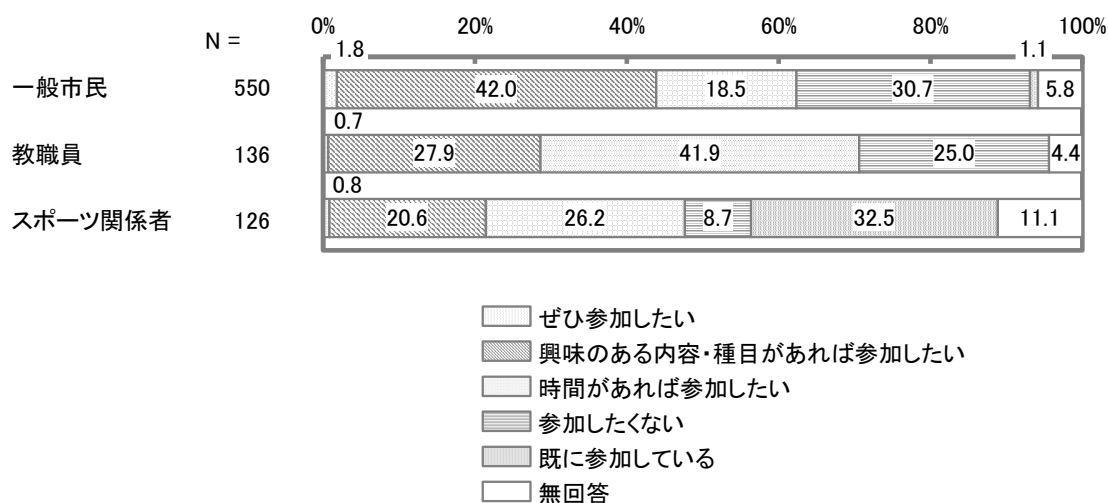
④ 総合型地域スポーツクラブのイベントや教室の参加経験

スポーツ関係者で「はい（参加したことがある）」の割合が高くなっています。一方、一般市民で「いいえ（参加したことがない）」の割合が高くなっています。



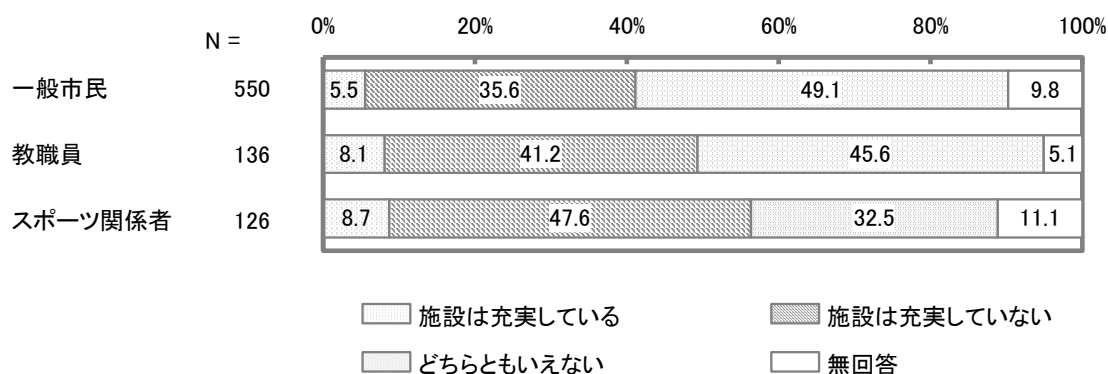
⑤ 総合型地域スポーツクラブのイベントや教室の参加意欲

一般市民で「興味のある内容・種目があれば参加したい」の割合が高くなっています。また、教職員で「時間があれば参加したい」の割合が高くなっています。



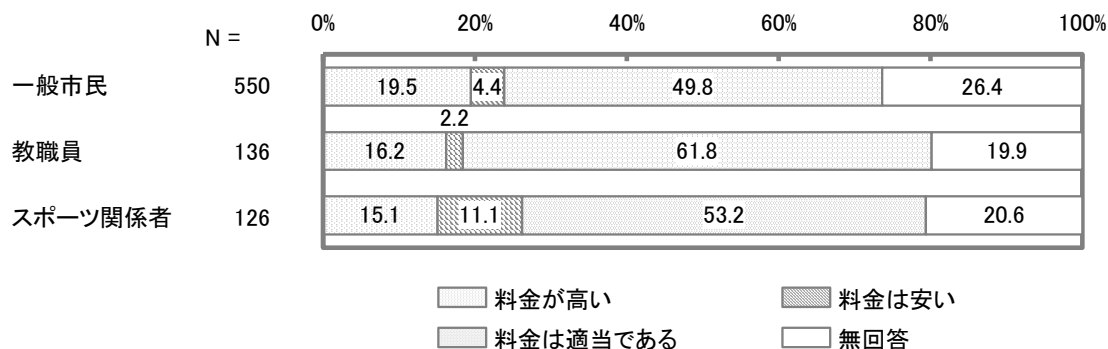
⑥ 羽島市のスポーツ施設の充実度

スポーツ関係者で「施設は充実していない」の割合が高くなっています。



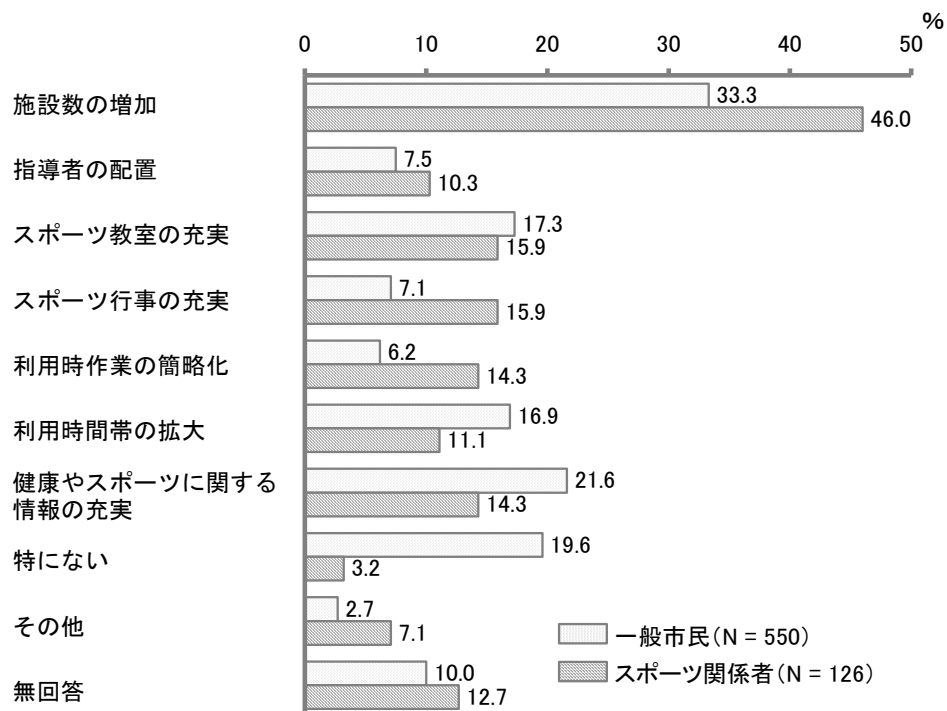
⑦ 羽島市のスポーツ施設の料金

教職員で「料金は適当である」の割合が高くなっています。



⑧ 市の公共スポーツ施設に望むこと

一般市民で「利用時間帯の拡大」「健康やスポーツに関する情報の充実」の割合が高くなっています。一方、スポーツ関係者で「施設数の増加」「スポーツ行事の充実」「利用時作業の簡略化」の割合が高くなっています。



【性年齢別（一般市民）】

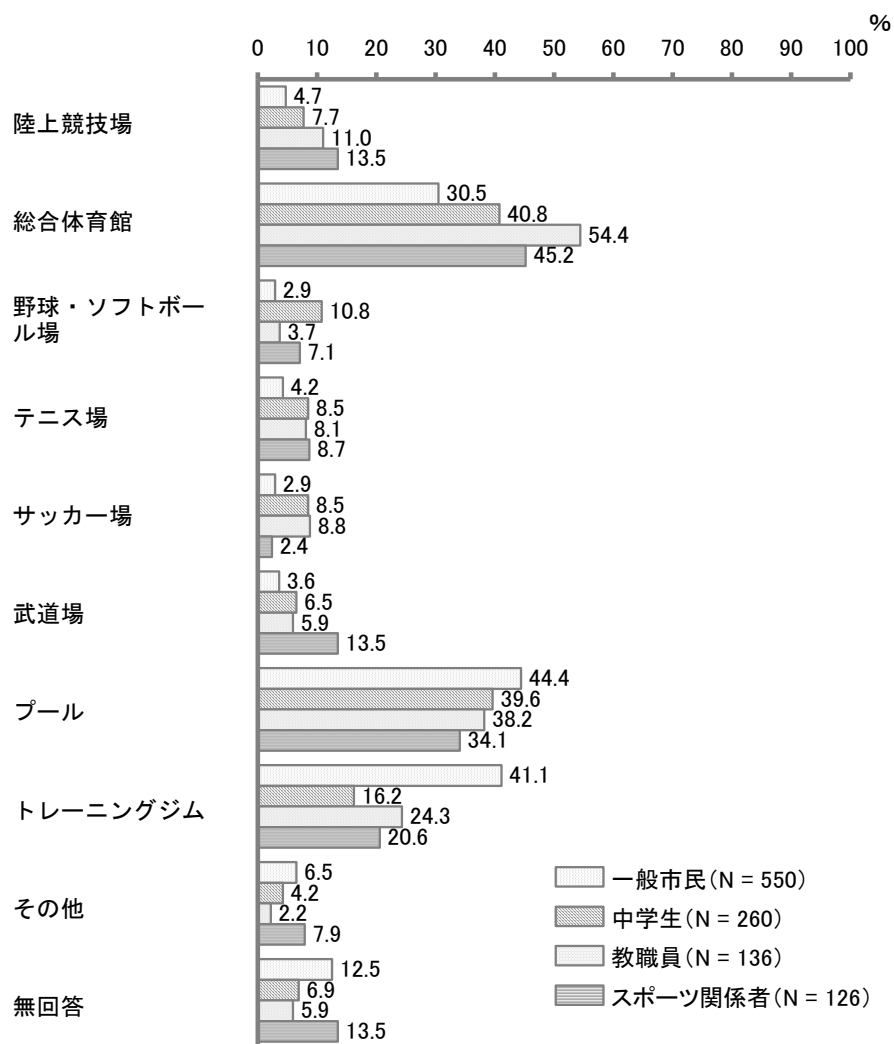
性・年代別でみると、他に比べ、男性の10歳代、20歳代で「施設数の増加」の割合が高く、約7割となっています。また、女性の60歳代で「健康やスポーツに関する情報の充実」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	施設数の増加	指導者の配置	スポーツ教室の充実	スポーツ行事の充実	利用時作業の簡略化	利用時間帯の拡大	健康やスポーツに関する情報の充実	特にない	その他	無回答
男性 10歳代	12	66.7	8.3	—	8.3	33.3	16.7	16.7	8.3	—	—
20歳代	18	66.7	11.1	22.2	11.1	11.1	33.3	—	5.6	5.6	—
30歳代	32	31.3	9.4	9.4	12.5	12.5	31.3	28.1	9.4	9.4	9.4
40歳代	42	40.5	14.3	14.3	4.8	9.5	38.1	2.4	4.8	4.8	7.1
50歳代	34	61.8	11.8	29.4	2.9	11.8	29.4	17.6	—	2.9	2.9
60歳代	59	25.4	5.1	13.6	6.8	3.4	13.6	23.7	23.7	1.7	13.6
70歳以上	42	21.4	9.5	4.8	7.1	2.4	4.8	23.8	35.7	—	19.0
女性 10歳代	13	38.5	7.7	15.4	15.4	—	7.7	15.4	30.8	7.7	—
20歳代	24	41.7	4.2	33.3	20.8	8.3	12.5	16.7	16.7	4.2	—
30歳代	49	44.9	2.0	34.7	10.2	2.0	18.4	18.4	12.2	4.1	4.1
40歳代	38	34.2	10.5	23.7	2.6	5.3	15.8	18.4	28.9	—	5.3
50歳代	47	29.8	4.3	23.4	4.3	6.4	14.9	21.3	19.1	4.3	8.5
60歳代	68	20.6	5.9	13.2	5.9	4.4	11.8	41.2	27.9	1.5	7.4
70歳以上	65	15.4	6.2	7.7	4.6	1.5	6.2	23.1	27.7	—	29.2

⑨ 今後充実していくべき施設

一般市民で「プール」「トレーニングジム」の割合が高くなっています。また、教職員で「総合体育館」の割合が高くなっています。



【性年齢別（一般市民）】

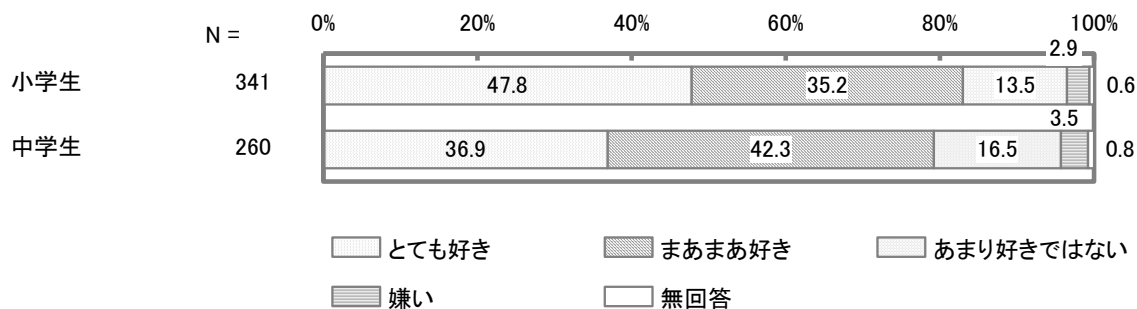
性・年代別でみると、他に比べ、女性の30歳代で「プール」の割合が高く、7割を超えています。また、男性の10歳代、女性の20歳代で「トレーニングジム」の割合が、男性の20歳代で「総合体育館」の割合が高く、約6割となっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	陸上競技場	総合体育館	野球・ソフトボール場	テニス場	サッカー場	武道場	プール	トレーニングジム	その他	無回答
男性 10歳代	12	8.3	50.0	—	—	—	8.3	50.0	58.3	—	—
20歳代	18	5.6	61.1	11.1	22.2	—	—	38.9	38.9	5.6	5.6
30歳代	32	—	25.0	6.3	9.4	15.6	3.1	53.1	43.8	12.5	3.1
40歳代	42	14.3	26.2	2.4	2.4	4.8	9.5	57.1	42.9	4.8	4.8
50歳代	34	14.7	23.5	8.8	11.8	—	2.9	41.2	44.1	14.7	5.9
60歳代	59	8.5	30.5	1.7	1.7	1.7	5.1	37.3	39.0	10.2	8.5
70歳以上	42	4.8	31.0	7.1	2.4	—	4.8	26.2	38.1	7.1	21.4
女性 10歳代	13	7.7	23.1	7.7	15.4	—	7.7	61.5	30.8	—	—
20歳代	24	8.3	33.3	—	4.2	4.2	4.2	16.7	58.3	4.2	4.2
30歳代	49	—	28.6	—	4.1	4.1	2.0	75.5	49.0	4.1	4.1
40歳代	38	—	36.8	2.6	5.3	5.3	7.9	50.0	34.2	5.3	7.9
50歳代	47	2.1	31.9	—	4.3	2.1	4.3	36.2	48.9	6.4	12.8
60歳代	68	1.5	30.9	—	—	1.5	—	50.0	42.6	5.9	10.3
70歳以上	65	1.5	23.1	3.1	—	1.5	—	33.8	23.1	4.6	44.6

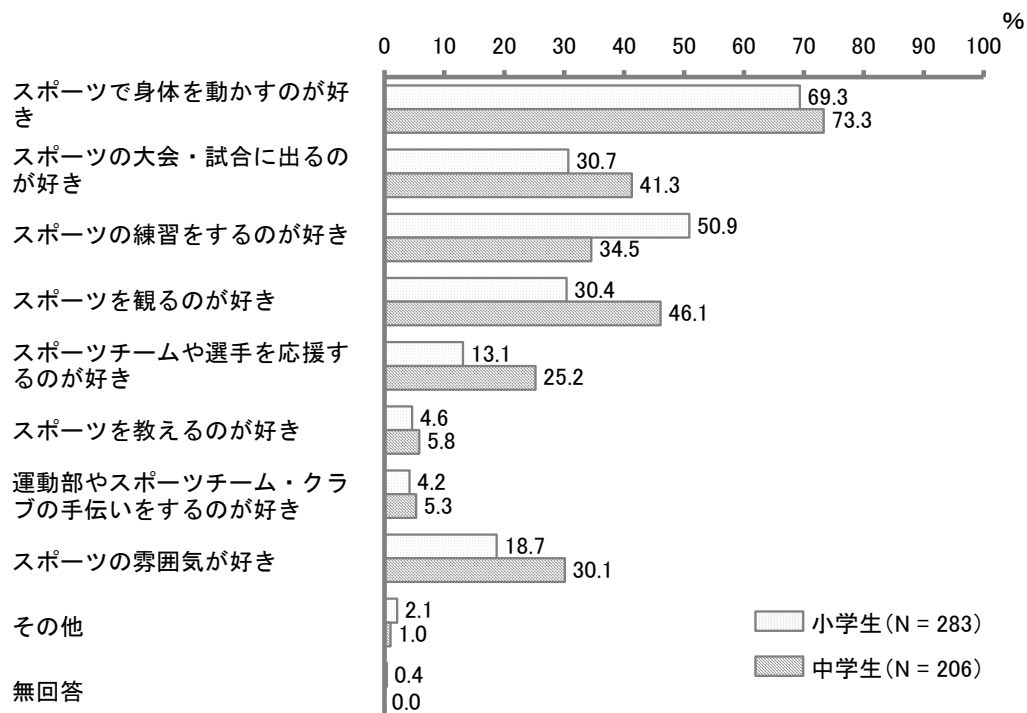
⑩ スポーツが好きかについて

小学生で「とても好き」の割合が高くなっています。



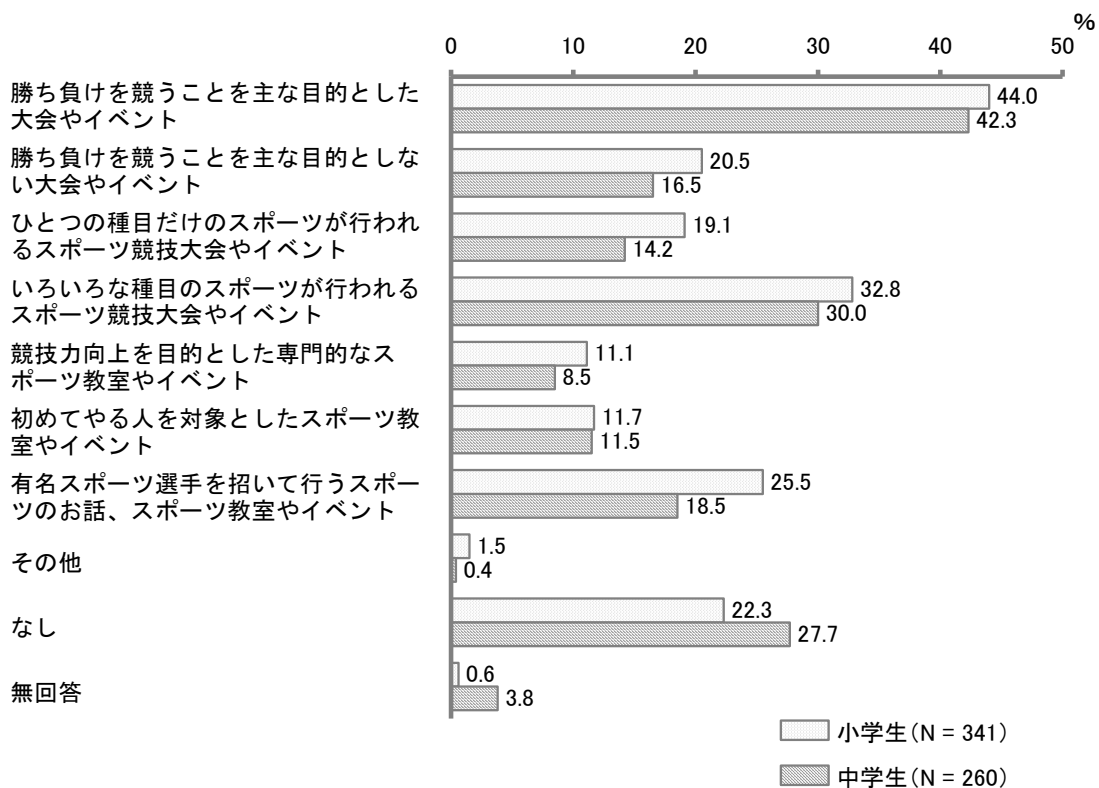
⑪ スポーツの好きなところ

小学生で「スポーツの練習をするのが好き」の割合が高くなっています。一方、中学生で「スポーツの大会・試合に出るのが好き」「スポーツを観るのが好き」「スポーツの雰囲気が好き」の割合が高くなっています。



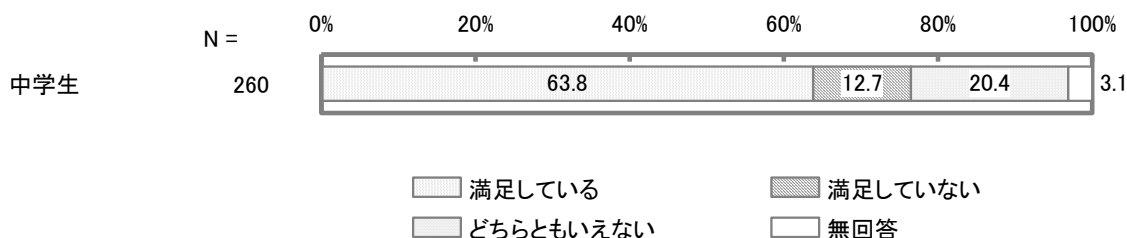
⑫ 参加してみたいと思うスポーツイベント

小学生で「有名スポーツ選手を招いて行うスポーツのお話、スポーツ教室やイベント」の割合が高くなっています。



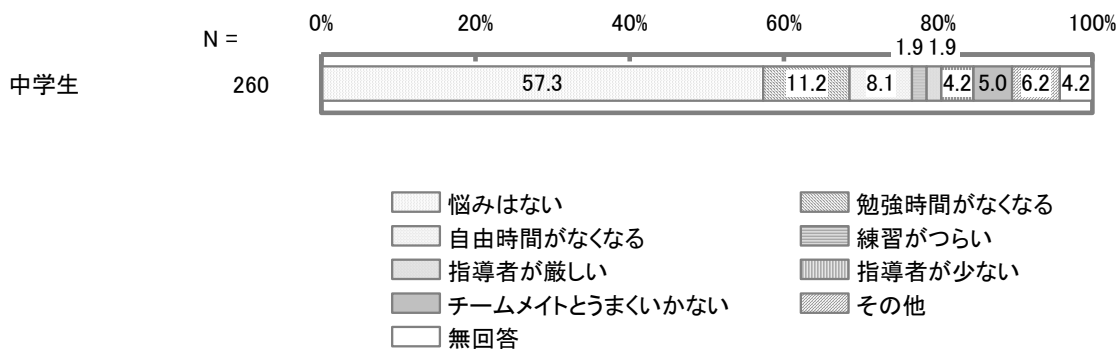
⑬ 部活動の満足度

「満足している」の割合が63.8%と最も高く、次いで「どちらともいえない」の割合が20.4%、「満足していない」の割合が12.7%となっています。



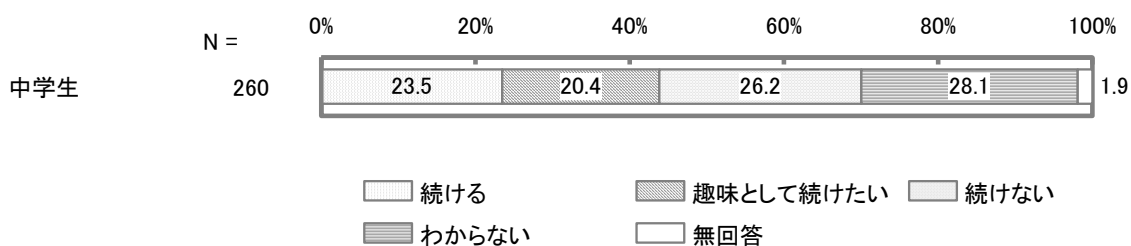
⑭ 部活動の悩み

「悩みはない」の割合が57.3%と最も高く、次いで「勉強時間がなくなる」の割合が11.2%となっています。



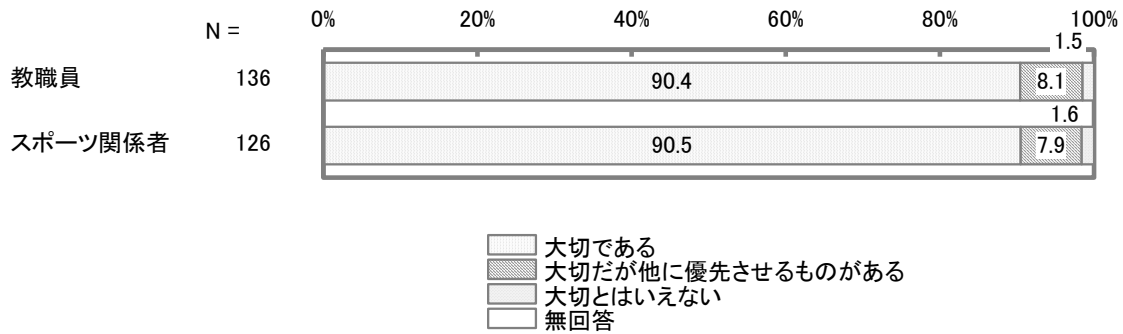
⑮ 部活動の種目を卒業しても続けることについて

「わからない」の割合が28.1%と最も高く、次いで「続けない」の割合が26.2%、「続ける」の割合が23.5%となっています。



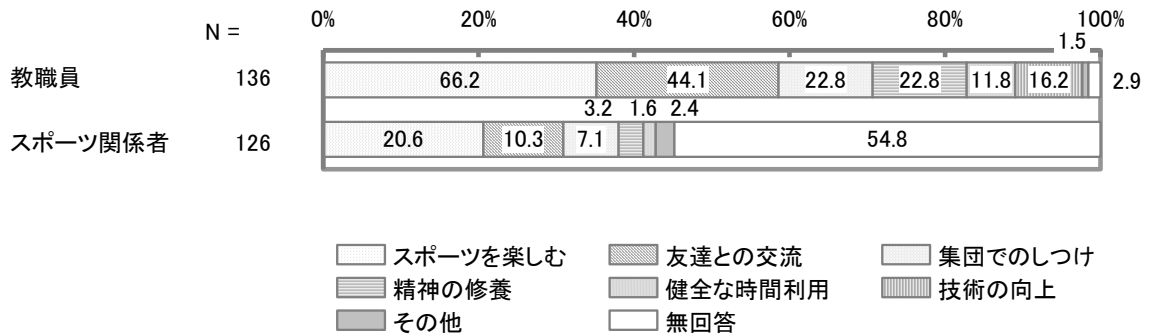
⑩ 少年期のスポーツの大切さ

教職員、スポーツ関係者で大きな差異はみられません。



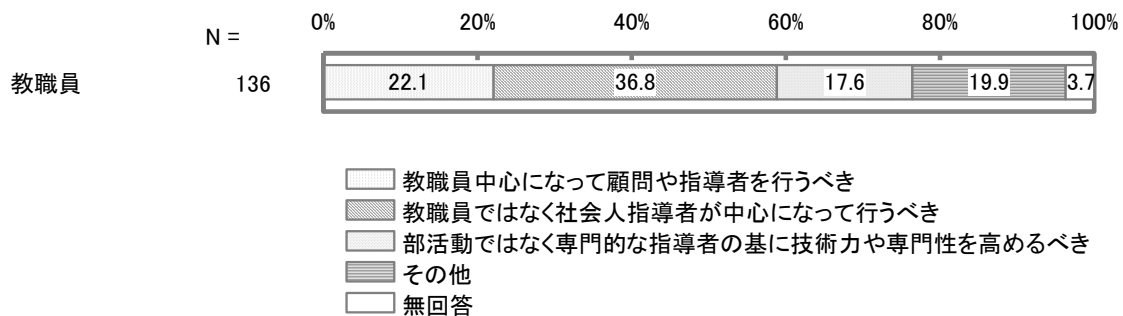
⑪ 少年期のスポーツに期待すること

教職員で「スポーツを楽しむ」の割合が高くなっています。



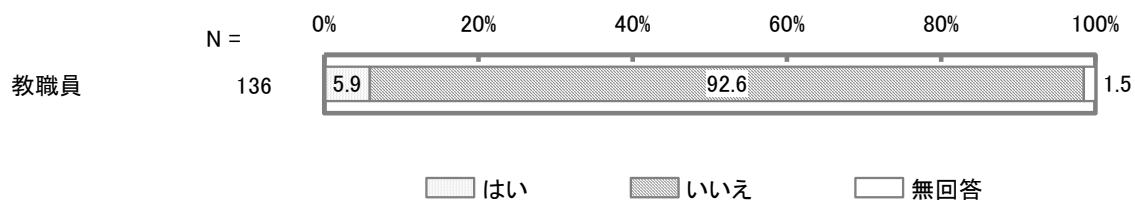
⑫ 部活動と教職員との関わりについて

「教職員ではなく社会人指導者が中心になって行うべき」の割合が 36.8%と最も高く、次いで「教職員中心になって顧問や指導者を行うべき」の割合が 22.1%、「部活動ではなく専門的な指導者の基に技術力や専門性を高めるべき」の割合が 17.6%となっています。



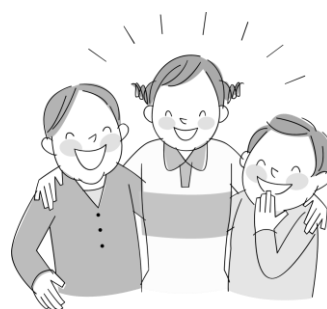
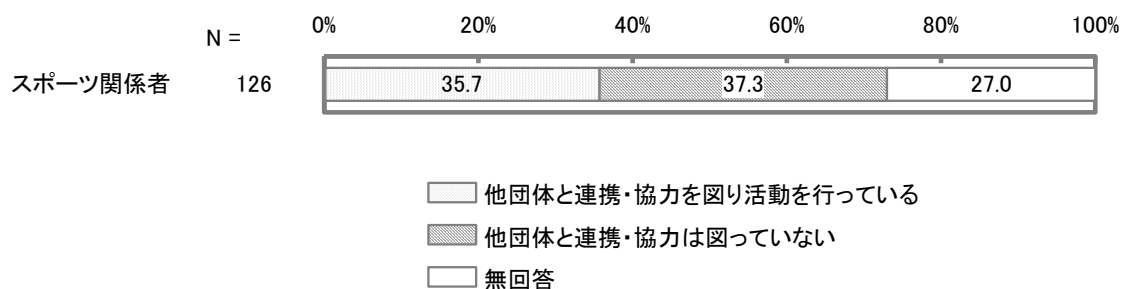
⑱ 研修会の参加経験

「はい（参加したことがある）」の割合が5.9%、「いいえ（参加したことがない）」の割合が92.6%となっています。



⑳ 団体の活動

「他団体と連携・協力は図っていない」の割合が37.3%、「他団体と連携・協力を図り活動を行っている」の割合が35.7%となっています。



1 基本理念

少子高齢化社会の進展や、生活スタイルの変化により、さまざまなスポーツ活動の環境が求められている中、市民が生涯にわたりスポーツを楽しみ、スポーツを通じてふれあい、交流、感動し、そしてスポーツの取り組みを支えることにより、「スポーツを楽しみ スポーツでふれあい・支えあう 元気なまち はしま」を目指していきます。

【 基本理念 】

スポーツを楽しみ スポーツでふれあい・支えあう

元気なまち はしま



2 基本目標

基本理念の実現に向けて、6つの基本目標を掲げます。

基本目標 1. 地域スポーツの推進

すべての市民のライフステージに応じたスポーツを行う機会の提供や指導者の育成支援、総合型地域スポーツクラブの強化及びクラブ間の連携強化により、市民のスポーツ参加を促進します。

基本目標 2. 学校体育の推進

幼児や児童生徒の体力づくりや心身の健康の保持増進を図るため、教職員の指導力の向上やスポーツ指導者の活用等により、体育・保健体育授業をはじめとする体育的活動や運動部活動の充実を図ります。

基本目標 3. 障がい者スポーツの推進

障がい者スポーツの裾野拡大に向け、スポーツに触れる機会の提供や障がい者スポーツを支える環境づくりを行うとともに、障がい者スポーツ大会等の選手の育成・強化を進めます。

基本目標 4. 競技スポーツの推進

ジュニア世代の発掘・育成と一貫した強化やトレーニングの導入、指導者の資質向上、選手が活動しやすい環境づくりなどを行うことにより、競技スポーツの推進を図ります。

基本目標 5. スポーツによる地域振興

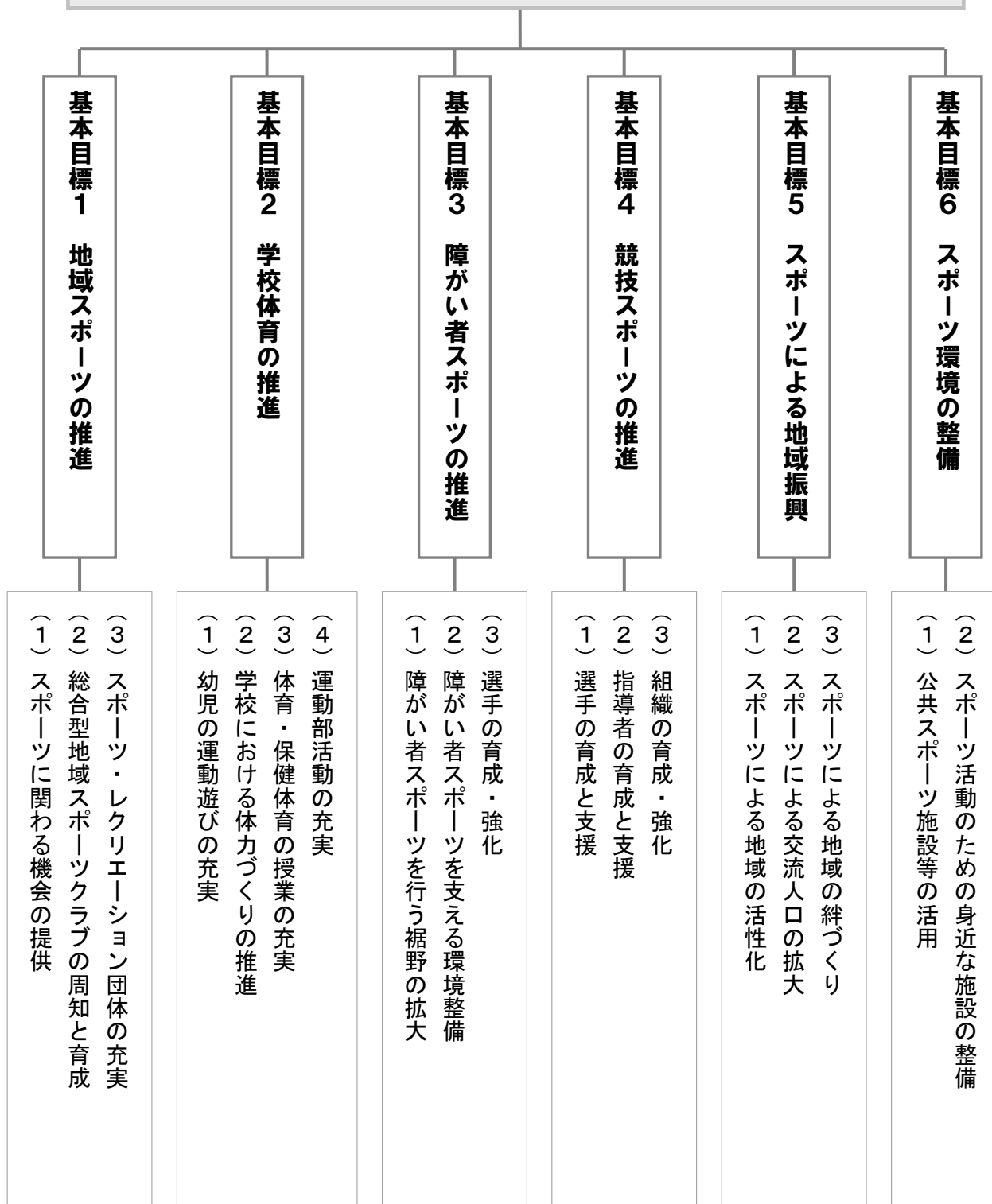
市内のスポーツ施設を有効活用し、交流人口の拡大と地域の活性化を図るとともに、住民のスポーツへの参加を通じて地域の絆づくりにつなげます。

基本目標 6. スポーツ環境の整備

市民のだれもが身近な地域で気軽に健康づくりやスポーツ活動に取り組める環境づくりを進めます。

3 計画の体系

スポーツを楽しむ スポーツでふれあい・支えあう 元気なまち はしま



1 地域スポーツの推進

【現状と課題】

多くの市民がスポーツを通じて、地域の活性化を図っていくことを期待しています。身近な地域において、スポーツを推進し、地域の活性化を図る仕組みとして、総合型地域スポーツクラブの充実を図っていくことが重要です。

アンケート調査結果から、総合型地域スポーツクラブの一般市民の認知度は5割程度、参加者は1割程度となっています。また、スポーツに関するイベントが行われる場合、参加したいものとして、「誰もが参加できるレクリエーション的なイベント」や「健康増進のためのイベント」「初心者のためのイベント」などが上位にあがっています。

本市では、スポーツ参加機会の充実のため、市内の総合型地域スポーツクラブの運営支援に努めています。

総合型地域スポーツクラブは運動・スポーツを行いたい、継続したいと願う人々の動機づけや受け皿として機能することが期待されています。

また、身近な地域で気軽に年齢や障がいの有無にかかわらず、誰もが参加できる大会や教室を開催し、地域住民の健康づくりはもとより地域の絆づくりを進める役割を果たしていくことが期待されています。

【施策の方向性】

スポーツに触れる機会の少ない市民が、運動やスポーツを行うことができるよう、身近な地域で、総合型地域スポーツクラブ等を活用しながら、気軽にスポーツを行う機会の提供を図っていきます。

また、地域スポーツを支える総合型地域スポーツクラブやスポーツ少年団、レクリエーション団体に対する支援を行い、市民が年齢や障がいの有無にかかわらず、気軽にまた快適にスポーツを行うことができるよう、スポーツ参加機会の提供に努めます。

【市民の取り組み】

- 総合型地域スポーツクラブの目的と内容を理解し、参加しましょう。
- 自身の健康状態に関心を持ち、運動やスポーツを生活に取り入れましょう。
- スポーツ教室や地域で行われるスポーツ大会等の体験会などに積極的に参加しましょう。
- 仕事や家事などをしながら取り組める、ながら運動に取り組みましょう。
- 運動・スポーツ教室などに参加するなど、自身のライフスタイルに合わせて運動・スポーツに親しみましょう。

【地域の取り組み】

- 総合型地域スポーツクラブの運営のための必要な人材確保と育成を行きましょう。
- 各種スポーツ団体が連携し、年齢や障がいの有無にかかわらず市民がスポーツに参加しやすい環境を整えましょう。

【具体的な施策】

(1) スポーツに関わる機会の提供

総合型地域スポーツクラブによる地域の特性に合ったスポーツ大会や教室を開催し、スポーツに触れ合う機会を創出していくとともに、ファミリースポーツ広場を開催し親子や三世代で楽しめる軽スポーツやレクリエーションスポーツを行う機会を提供していきます。

また、毎年5月に開催される「羽島市チャレンジデー」への参加を広く市民に促しスポーツを行う動機づけを行います。

地域で行われるスポーツ大会の開催や参加促進を図ります

(2) 総合型地域スポーツクラブの周知と育成

総合型地域スポーツクラブは、生涯にわたって継続的にスポーツを行い世代を超えて交流できる場としての役割があり、それを一層推進するため、クラブの認知・参加の促進、活動拠点の確保の支援、クラブ運営スタッフの育成、既存スポーツ団体・クラブとの連携促進、学校施設など、既存公共施設の有効活用により、総合型地域スポーツクラブの周知と育成を図ります。

生涯スポーツの拠点となる総合型地域スポーツクラブの周知と育成を図ります

(3) スポーツ・レクリエーション団体の充実

地域スポーツにおいては、総合型地域スポーツクラブやスポーツ少年団、レクリエーション団体や地域のスポーツチーム等があり、健康づくりや地域づくり、競技力の向上などそれぞれの目的を持って活動しています。そういった中でそれぞれの団体が連携や情報交換をすることにより新たな発想を生み事業の拡大や強化につながります。横断的な連携や取り組みを行い団体活動の充実を図ります。

総合型地域スポーツクラブ、スポーツ少年団本部、レクリエーション協会を支援することにより団体の活動の充実を図ります



2 学校体育の推進

【現状と課題】

子どもにとってスポーツは、生涯にわたってたくましく生きるための健康や体力の基礎を培うとともに、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培うなど人間形成に重要な役割を果たすものです。

近年、積極的にスポーツをする子どもとそうでない子どもの二極化が顕著に認められることから、運動習慣が身に付いていない子どもに対する支援の充実等も大きな課題としてあります。

アンケート調査結果をみると、小・中学生ともに、約8割が運動、スポーツが好きと回答しています。

また、教職員の多くが、少年期にスポーツをすることが大切だと認識しており、少年期のスポーツに期待することとして、「スポーツを楽しむ」「友達との交流」、「集団でのしつけ」、「精神の修養」が上位に上がってきています。

部活動と教職員の関わりについては、「教職員ではなく社会人指導者が中心になって行うべき」が約4割と最も高く、次いで「教職員が中心になって顧問や指導者を行うべき」が約2割なっています。

そして、この1年の間にスポーツ指導者向けの研修会に参加している割合は数%であり、課題としてあげられます。

平成27年度 体力・運動能力調査結果（小学校3年生）

		握力 (kg)	上体起こし (cm)	長座体前屈 (cm)	反復横跳び (点)	シャトルラン (回)	50m走 (秒)	立ち幅跳び (cm)	ソフトボール投げ (m)
男子	市平均	12.2	14.4	29.0	35.2	35.1	10.4	138.1	15.5
	県平均	12.0	15.2	28.5	33.8	35.0	10.2	133.8	16.1
	国平均	13.0	16.1	29.2	35.1	37.7	10.1	137.5	16.3
女子	市平均	11.1	13.8	30.6	32.1	25.9	10.7	132.7	9.3
	県平均	11.5	14.8	32.0	32.1	26.5	10.5	126.5	9.9
	国平均	12.1	14.9	32.0	33.6	28.3	10.5	129.3	9.7

平成 27 年度 体力・運動能力調査結果（小学校 5 年生）

		握力 (kg)	上体起こし (cm)	長座体前屈 (cm)	反復横跳び (点)	シャトルラン (回)	50m走 (秒)	立ち幅跳び (cm)	ソフトボール投げ (m)
男子	市平均	17.2	19.6	33.0	43.5	52.2	9.8	158.0	22.7
	県平均	16.1	19.0	32.0	41.2	50.1	9.3	151.2	23.1
	国平均	17.4	20.1	32.7	43.0	55.3	9.3	154.7	24.6
女子	市平均	15.3	16.8	34.2	38.8	36.7	10.0	144.0	14.3
	県平均	15.7	17.8	36.4	39.2	38.6	9.6	146.1	14.5
	国平均	16.6	18.6	37.3	40.7	42.8	9.6	146.5	14.4

平成 27 年度 体力・運動能力調査結果（中学校 1 年生）

		握力 (kg)	上体起こし (cm)	長座体前屈 (cm)	反復横跳び (点)	シャトルラン (回)	50m走 (秒)	立ち幅跳び (cm)	ソフトボール投げ (m)
男子	市平均	22.7	22.8	38.5	46.0	63.1	8.7	172.5	18.1
	県平均	23.7	23.6	39.2	48.2	68.1	8.5	179.6	18.2
	国平均	24.6	25.1	40.0	49.6	73.8	8.4	183.1	18.8
女子	市平均	21.9	19.4	42.1	42.2	44.5	9.2	161.0	11.8
	県平均	21.5	19.6	42.7	43.3	46.3	9.1	163.7	11.9
	国平均	21.9	21.0	43.2	44.9	52.6	9.0	165.5	12.2

平成 27 年度 体力・運動能力調査結果（中学校 2 年生）

		握力 (kg)	上体起こし (cm)	長座体前屈 (cm)	反復横跳び (点)	シャトルラン (回)	50m走 (秒)	立ち幅跳び (cm)	ソフトボール投げ (m)
男子	市平均	28.4	27.0	43.5	51.2	83.7	7.9	197.8	21.3
	県平均	29.1	26.9	44.5	52.0	83.4	7.9	196.6	20.7
	国平均	30.0	28.7	43.4	53.3	90.1	7.9	200.1	21.9
女子	市平均	23.5	22.7	45.3	44.2	54.1	8.8	167.7	12.6
	県平均	23.5	22.1	45.8	46.0	56.5	8.6	168.0	13.1
	国平均	24.1	23.5	45.1	46.5	59.7	8.6	169.8	13.8

平成 27 年度 体力・運動能力調査結果（中学校 3 年生）

		握力 (kg)	上体起こし (cm)	長座体前屈 (cm)	反復横跳び (点)	シャトルラン (回)	50m走 (秒)	立ち幅跳び (cm)	ソフトボール投げ (m)
男子	市平均	35.4	30.6	49.6	55.2	90.1	7.5	208.7	25.4
	県平均	34.6	29.0	47.3	54.6	91.8	7.5	208.3	23.3
	国平均	35.7	30.8	47.9	55.6	96.8	7.4	214.6	24.8
女子	市平均	26.0	23.0	47.1	45.5	51.3	8.7	169.4	13.7
	県平均	25.1	23.5	47.8	46.5	55.7	8.8	169.2	14.1
	国平均	25.5	24.6	47.5	47.2	62.4	8.6	174.0	14.7

【施策の方向性】

子どもが積極的に運動遊びを行うことを通じて、生涯にわたって運動を親しむ、資質や能力を育てるとともに、健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図ります。

【市民の取り組み】

- 親子で積極的に外遊びや運動をしましょう。
- 運動部活動に参加し、楽しみながら運動・スポーツを続けましょう。

【地域の取り組み】

- 地域の人々が積極的に部活動の外部指導者となり部活動の活性化に取り組みましょう。

【具体的な施策】

(1) 幼児期の運動遊びの充実

体を動かす気持ちよさを感じ、進んで体を動かそうとする意欲を育てることは、青年期における運動・スポーツ活動や体力の向上に良い影響を与えることから、学校・園、家庭、地域において遊びを含めた多様な運動の機会づくりなど、幼児期における運動遊びプログラムの導入をします。

幼児期における運動遊びプログラムを導入し、幼児期から運動をする機会づくりをしていきます

(2) 学校における体力づくりの推進

各学校において、体力テストの結果を基に、各学校ごとの課題を把握しながら幼児・児童・生徒の体力向上の取り組みを進めていきます。

また、その中核となる教員が、学校間で意見交換を行い課題の克服に努め、より効果が現れるような取り組みを行っていきます。

学校間で教員どうしの意見交換を行い具体的な対策を講じることにより、課題の克服に努め児童・生徒の体力の向上を目指します

(3) 体育・保健体育の授業の充実

体育や保健体育の授業は、子どもたちが運動の楽しさにふれ、生涯にわたって運動・スポーツに親しむ資質や能力を育てます。

また、体育担当教員の指導力向上のために出前講座等の活用により、職員の研修において専門知識の高い外部指導者から学び学校における体育・保健体育の授業の充実を図っていきます。

教職員の指導力向上のための積極的な研修をおこないます

(4) 運動部活動の充実

学校における運動部活動は、生徒が自発的、自主的にスポーツを行い、生涯にわたってスポーツに親しむ能力や態度を養うとともに、協調性、責任感、忍耐力を育てるなど人格形成の重要な場です。そのため、生徒のニーズに応じた活動の工夫や、指導者育成や外部指導者の活用などの取り組みにより運動部活動の活性化を推進します。

外部からの専門的な指導者の活用をし、部活動の充実を図ります



3 障がい者スポーツの推進

【現状と課題】

障がい者スポーツは障がいの種別や程度によってさまざまな競技が実施されており、機能回復を目的とした「リハビリテーションスポーツ」、体力の維持や増強を目的とした「生涯スポーツ」、パラリンピックをはじめとした競技性を求める「競技スポーツ」など、スポーツ活動を行う障がい者の目的や意識もさまざまです。

平成 28 年 4 月に県立羽島特別支援学校が開校したことから、児童・生徒の運動機会の創出や、市内の小・中学校の児童・生徒や地域住民とのスポーツ交流が増えていくことが期待されます。

【施策の方向性】

より多くの障がい者がスポーツに参加する機会を確保するため、さまざまな競技種目の障がい者スポーツ教室を実施することや、障がいの有無にかかわらず誰もが参加できるスポーツイベントを実施することで、障がい者スポーツの裾野を拡大し、障がい者の社会参加を進めていきます。

また、県立羽島特別支援学校の開校に伴い、障がい者アスリートの発掘・支援・育成などの障がい者スポーツを支える環境を整備していきます。

【市民の取り組み】

○障がいの有無に関わらず、地域や市で行われる運動・スポーツ教室やイベントに積極的に参加し、運動・スポーツを楽しみましょう。

【地域の取り組み】

○地域で行われる運動・スポーツ教室やイベントなどに参加する障がいのある方を理解し、サポートしましょう。

【具体的な施策】

(1) 障がい者スポーツを行う裾野の拡大

社会生活や地域の中で、障がいのある人も一緒に運動やスポーツ活動を行うことは、ノーマライゼーションの理念や、誰もが生涯にわたりスポーツに親しむ社会の実現を図る上でも重要です。障がいの有無にかかわらず市民が障がい者スポーツを実際に体験し、理解できる機会の創出に努めます。

福祉部署との連携により障がい者スポーツの機会創出に努めます

(2) 障がい者スポーツを支える環境整備

平成 28 年 4 月に開校した県立羽島特別支援学校とのスポーツ交流を行い、障がいのある人がスポーツ活動に気軽に参加できるような環境整備を行うことにより、障がい者に対してスポーツへの動機づけを高め、障がい者スポーツの振興に努めます。

また、そのために障がい者スポーツ指導員の資格取得の支援を行い、より専門的に障がい者のスポーツ指導を行えるようにします。

県立羽島特別支援学校の児童・生徒とスポーツ交流を行います

(3) 選手の育成・強化

県立羽島特別支援学校における障がい者スポーツ活動から、障がいスポーツ選手の発掘、育成・強化を図り、全国障がい者スポーツ大会の出場を目指せる選手の育成支援を行います。

障がい者アスリートを発掘しトップアスリート育成支援事業で支援を行います

4 競技スポーツの推進

【現状と課題】

アスリートは、不断の努力の積み重ねにより、人間の可能性の極限を追求しています。同時に、その活躍は、市民に誇りと喜び、夢と感動などをもたらすものです。スポーツ基本法では、アスリートが、オリンピック競技大会やパラリンピック競技大会等の国際競技大会等において優秀な成績を収めることができるよう、スポーツに関する競技水準の向上に資する諸施策について、相互の有機的な連携を図りつつ、効果的に推進されなければならないと定められています。

こうしたことを踏まえ、競技スポーツの推進を図るためには、ジュニア期からトップレベルに至る支援の強化や、スポーツ指導者等の養成・研修、強化などに取り組むことが重要です。

本市では、トップアスリート育成支援事業を進め、全国レベルで優秀な成績を収めた選手の育成と支援をしています。

アンケート調査結果をみると、小・中学生において、今後、参加してみたいと思うスポーツイベントとしては、「勝ち負けを競うことを主な目的とした大会やイベント」や「有名スポーツ選手を招いて行うスポーツのお話、スポーツ教室やイベント」が望まれています。

【施策の方向性】

スポーツ関係団体やスポーツ少年団、学校部活動等との連携強化を図りながら、競技力に優れたチーム・選手の育成や支援を行い、上位大会への参加等を目指すとともに、トップアスリートの育成に努めていきます。

また、指導者等、競技スポーツの推進に寄与する人材の養成や、トップアスリートを招聘したスポーツ教室等を開催し、競技力の向上に努めていきます。

【市民の取り組み】

- 挑戦したい競技や適性に合った競技を選択し、継続しましょう。
- スポーツ指導者を活用し、質の高い技術・技能を習得しましょう。
- アスリートによるスポーツ教室等にも参加し、スポーツや自分自身との向き合い方などを学び、日頃のトレーニングなどに活かしましょう。

【地域の取り組み】

- 地域から優れた成績や功績を収めるアスリートが輩出されるよう、地域一体となって支えあいましょう。

【具体的な施策】

(1) 選手の育成と支援

スポーツ教室の開催や各競技スポーツ団体が行うジュニアスポーツ教室等で、優れた選手・団体の発掘・育成を行うとともに、これらの選手や団体への支援のために、主要な全国大会において優秀な成績を収めた選手・団体を強化指定しその後の活躍を支援するトップアスリート強化指定事業、主要な全国大会において優秀な成績を収めた選手・団体に対して褒賞金を交付する褒賞金交付制度、県予選等を勝ち抜き全国大会へ出場する選手・団体へ交付する激励金交付制度等により選手の育成支援を行っていきます。

そういった中で、強化指定ならびに優秀な成績を収めた全国レベルの選手・団体によるスポーツ教室の開催を行い指導を受けることにより、次世代の競技力の向上を目指します。

また、オリンピック経験者やプロスポーツ選手と言ったトップアスリートを招いたスポーツ教室等も開催し、高いレベルでスポーツに接する機会を提供します。

トップアスリート育成支援事業により選手の育成支援をします

(2) 指導者の育成と支援

スポーツ指導者や部活動指導の教員を対象とした県などの出前講座を活用した講習会の開催や研修会の受講機会の提供により、指導者の育成支援を図ります。

より高い専門性を持った指導者の育成を行います

(3) 組織の育成・強化

総合型地域スポーツクラブを核としてジュニアからトップアスリートまでの一貫指導体制の拠点としての役割を担う組織とすることや、スポーツ少年団の団員の加入率の増加を促すこと、羽島市スポーツ協会に所属する競技団体の強化や学校の部活動の活性化を促すことを支援していきます。

スポーツ団体を支援することにより組織の育成・強化を図ります



5 スポーツによる地域振興

【現状と課題】

市内各地では、さまざまなスポーツ大会や競技会が開催され、地域における健康づくりや体力向上、または競技力向上に大きな役割を果たしています。

一方、スポーツには、人々の注目を集め、市内に人を呼び込み、交流を促す大きな力があります。大規模で人気の高いスポーツイベントには、たくさんの参加者や観客が集まり、地域経済に大きな影響を及ぼしています。

そうした中で、令和3年度に「第33回全国健康福祉祭ぎふ大会」のグラウンド・ゴルフ競技が羽島市で開催されるのを契機に全国から来市する競技者に羽島市の魅力を伝え大会後も来市いただけるようアピールをしていくなど、スポーツの持つ力に着目し、交流人口の拡大や地域経済の活性化の観点から、スポーツイベントを誘致・開催する取り組みをしていくことが重要です。

【施策の方向性】

市内のスポーツ施設の有効活用や団体、企業などとの連携により、交流人口の拡大と地域の活性化を図るとともに、住民のスポーツ参加により地域の絆を深める施策を展開します。

また、競技スポーツの全国大会レベルの試合や合宿の誘致を行い、市外からの選手・関係者・観戦者を呼び込み、スポーツを通じて、参加者どうしの一体感を醸成し、市民と来場者との交流や市民が運営等に携わることによる地域の絆づくりを促進していきます。

【市民の取り組み】

- 地域で行われる運動・スポーツイベントの運営スタッフとしても積極的に参加しましょう。
- 地域での運動・スポーツ活動を担うスポーツ推進委員、総合型地域スポーツクラブなどに、委員やスタッフとして運営に関わりましょう。

【地域の取り組み】

- 地域で行われる運動・スポーツの行事に積極的に参加し、地域の人とコミュニケーションを図りましょう。

【具体的な施策】

- (1) スポーツによる地域の活性化

特色ある地域の資源を取り入れたスポーツイベントの開催は、地域を活性化に導き、人やそれに関わる市民ならびに団体、企業などとの結びつきを強化します。市民によるスポーツボランティアのイベント参加や地元企業の協力などにより地域活性化を図ります。

スポーツイベント開催による地域協力を行い活性化を図ります

(2) スポーツによる交流人口の拡大

平成28年9月に開催された「第70回全国レクリエーション大会 in 岐阜」、さらには、令和3年10月末から11月初めにかけて開催される「第33回全国健康福祉祭ぎふ大会」を契機に、交流人口の拡大を図ります。

羽島市は、「第70回全国レクリエーション大会 in 岐阜」と同様に、「第33回全国健康福祉祭ぎふ大会」においても、グラウンド・ゴルフ競技会場となるため、全国から多くの来場者を迎え入れる機会が得ることができます。この機会を十分に生かし、「第70回全国レクリエーション大会 in 岐阜」の成果として生まれたミナレク運動（県民皆が1つレクリエーションを実施することで健康増進と健康寿命につながるレクリエーション活動）をはじめとしたレクリエーションやスポーツを通じて交流人口の拡大を図って行きます。

全国レベルの大会の誘致により交流人口の拡大を目指します

(3) スポーツによる地域の絆づくり

スポーツにより、世代や地域を超えた交流を広げ、絆が深まるよう、地域のスポーツイベントへの参加をしながら、健やかに生涯スポーツを楽しめるよう取り組みを進めます。

羽島若獅子駅伝競走大会等、市内全域で行われるスポーツイベントや、総合型地域スポーツクラブ主催のイベント等への運営サポート役として市民が積極的に参加することや、地元で開催される町民運動会等への積極的な参加により地域の絆づくりができるとともに、地域全体でスポーツを支えながら絆を築いていける仕組みづくりを推進していきます。

地域のスポーツイベントへの市民参加による市民どうしの絆づくりを推進します

6 スポーツ環境の整備

【現状と課題】

年齢や障がいの有無にかかわらず、市民のだれもが、日常にかつ気軽にスポーツを楽しむには、身近な場所にスポーツができる施設があり、安全・快適・便利に利用できることが求められます。

平成24年に岐阜県で「ぎふ清流国体」「ぎふ清流大会」が催され、競技者として体を動かしたり、観戦に訪れ応援したり、競技者を支えたりといった、さまざまなスポーツへの参加形態がありました。

本市でも、単にスポーツを行うための施設ではなく、そこに人が集う施設であることが求められます。

アンケート調査結果をみると、市民からは、総合体育館やプールを含め、身近でスポーツや運動に取り組める環境づくりが求められています。

【施策の方向性】

市民ニーズに対応していくとともに、健康づくりやスポーツ活動の活性化を図るため、体育施設の新設は検討をせざるを得ないことから、既存の公共スポーツ施設の有効活用を図るとともに、体育施設の計画的な修繕や維持などの環境整備を図っていきます。

【地域の取り組み】

○地域において、学校施設等の身近にある公共スポーツ施設を利用し、体力向上に努めましょう。

○身近にある公共スポーツ施設は市民の財産です。大切に使用しましょう。

【具体的な施策】

(1) 公共スポーツ施設等の活用

市民が日常的にスポーツを実践するには、気軽にスポーツに親しむことができる場所の確保が欠かせません。多様化するスポーツニーズに応えるため、公共スポーツ施設の利便性の向上を図るとともに、効率的な管理運営を促進します。

身近で地域に根ざした活動を行うために学校開放による施設の貸し出しを行うことや、市の施設を市民ニーズに合った運用を行うために指定管理者がニーズを聞き取り、よりニーズに合った管理・運営をしていきます。

市民ニーズに合わせて公共スポーツ施設を管理・運営をしていきます

(2) スポーツ活動のための身近な施設の整備

多くのスポーツ団体やサークルなどが、気軽に安全に、安心して日常的な健康づくりやスポーツ活動ができるよう整備を行っていきます。

平成 28 年 4 月から防災ステーションにおいてスポーツジムを開設し、気軽に体を動かすことができる施設を提供することで、動機づけを高め、市民の健康づくりや生涯スポーツの拠点として活用していきます。

また、体育施設の計画的な整備や維持を行うために平成 27 年度より「羽島市体育施設建設整備基金」を創設し、令和元年度末時点の積立て金額は 45,041,690 円となっています

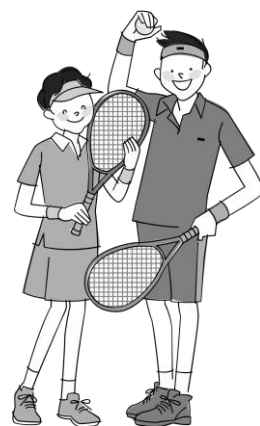
体育施設の計画的な整備により市民の健康づくりを支援していきます

○ 市内の体育施設

羽島市運動公園 (野球場・多目的広場・テニスコート)	市民ソフトボール大会、スポーツ少年団野球大会等、屋外スポーツを主体とする連盟等の各種の大会並びにスポーツ・レクリエーション活動の場として市民に広く利用されています。 平成 24 年に開催された「ぎふ清流国体・ぎふ清流大会」においてはソフトボール競技会場となりました。 平成 26 年にはテニスコートの改修工事を行い、テニスコートが 4 面から 6 面(コート面積 3,420 m ² から 4,300 m ²)へと拡張され施設の充実を図りました。 また、競技施設の充実とともに公園としての整備を進めることとし、園路の設置や東屋を設置し、市民の憩いの場として親しまれる運動公園をめざします。
-------------------------------	--

木曾川堤外正木運動場・木曾川堤外下中運動場	木曾川堤外下中運動場は昭和 56 年 9 月に木曾川河川敷に完成し、サッカーができます。木曾川堤外正木運動場は昭和 58 年 9 月に木曾川河川敷に完成し、野球・ソフトボール・陸上・サッカーなどに利用されていましたが、平成 3 年度にははしま・リバーフロント開発整備事業スポーツコミュニティゾーンとして正木町・竹鼻町両体育振興会の協力を得て全面改修を進め、運動広場 4 面・サッカー場・テニスコート・ふれあい広場等が平成 4 年 5 月に竣工し、多目的に使用されています。 また、平成 5 年 4 月には、ふれあいの里広場（パターゴルフ 18 ホール）が竣工し、市民のふれあいの場となっています。（敷地面積 86,900 m ² ）
ふれあいの里みどりの広場 （リバーウォッチングゾーン）	木曾川堤外（下中町）に芝生広場や野草広場を備えた多目的広場を平成 7 年 10 月より一般開放して市民の憩いの場として活用されています。また、平成 12 年 6 月には常設のグラウンド・ゴルフコースが整備され、県下初の（公社）日本グラウンド・ゴルフ協会公認コースの認定を受けました。（敷地面積 65,500 m ² ） 平成 28 年度に全国レクリエーション大会が岐阜県で開催されるなど、様々な大会にて当地がグラウンド・ゴルフ競技の会場となるため、坂路の改修や便所の更新も行い環境改善を図っています。
長良川南部多目的広場 （インラインスケート場）	「はしま・リバーフロント開発構想」の一環として、長良川堤外（桑原町）に平成 9 年 6 月に完成し、芝生広場とカラー舗装のインラインスケートコースを備え、家族揃って憩いの場または地域やグループでのふれあいの場として活用されています。（敷地面積 28,000 m ² 、1,000m インラインスケートコース常設）
長良川多目的運動場	「はしま・リバーフロント開発構想」の一環として、長良川堤外（堀津町）に平成 13 年 3 月に竣工し、陸上競技場・サッカー場・パターゴルフ場・お絵描き広場を備え、誰もが自然の中でスポーツに接することができる場として利用されています。また、令和 2 年度 3 月には、400mトラック及び走り幅跳用助走路の土壌改良や雨水排水の整備を進め、陸上種目の競技環境の改善を図りました。（敷地面積 41,105 m ² ）
羽島市柔剣道道場・弓道場	柔剣道道場・弓道場は、社会体育を振興し、市民の心身の健全な発達と青少年の健全育成を目的に昭和 48 年度に建設されました。以来、青少年を中心に柔道、剣道、弓道などの練習、大会等盛んに利用されています。（敷地面積 柔剣道道場：1,222 m ² 弓道場：725 m ² ）
学校体育施設	市民のスポーツ活動に対する意欲が高まり、その活動内容も多様化してきています。それに伴い、活動の場を屋内に求める人が多くなってきました。こうした市民の要望にこたえるため、昭和 55 年 5 月から特に需要の多い正木小学校・小熊小学校・竹鼻小学校・中央小学校・竹鼻中学校を学校体育施設として開放を行い、続いて昭和 56 年度には足近小学校・福寿小学校・堀津小学校・中島中学校・桑原中学校（現桑原学園）を開放、さらに昭和 60 年度から羽島中学校、昭和 61 年度から中島小学校、平成 5 年度から中央中学校を開放しました。これで市内 13 校の学校体育施設を開放し、地域住民のスポーツ活動の場として利用されています。 実施にあたっては、学校教育活動に支障のない範囲で市民のスポーツ活動の場の確保に努め、学校開放運営委員会と管理員によって、施設使用の円滑化を図っています。

<p>夜間照明施設</p>	<p>羽島市運動公園の野球場には、昭和 50 年 10 月に夜間照明施設が設置され、昭和 62 年 3 月に照明器が全面改修されました。そして、平成 23 年 3 月に野球場の全面改修に合わせて、新たに照明器を設置し、より充実した施設となりました。テニス場では平成 26 年度の改修工事において照明施設の改修も行い、よりよい環境で夜間にもテニスを楽しむことができるようになりました。</p> <p>また、社会体育開放施設として学校の運動場に夜間照明施設が 4 会場に設置されています。昭和 52 年 9 月竹鼻小学校運動場に設置されたのをはじめ、昭和 54 年 3 月には中央小学校に、平成 16 年 8 月には羽島中学校に設置され、身近な夜間照明施設として地域住民に利用されています。さらに平成 19 年 5 月には桑原中学校（現桑原学園）にも設置され、南部の地域住民を中心として利用されています。</p>
<p>その他社会体育施設</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 羽島市民会館ホール 卓球、バドミントン、バレーボール、テニス、バスケットボール、フットサルなどに利用できます。 • 防災ステーション 剣道、柔道などの武道やヨガなどの体操に利用できます。また、平成 28 年 4 月より施設内部にスポーツジムを設置し、市民の健康増進、生涯スポーツの拠点として利用できるようになりましたが、スポーツジムのあり方については今後検討していきます。



1 数値目標

ここでは、本計画の基本理念及び基本目標を達成するため、数値目標を設定し、この数値目標の達成に向けて、スポーツ施策を展開していきます。

項目	策定時 数値目標	H31 (R 元) 目標	現状 (R 元)	新目標 (R6)
総合型地域スポーツクラブのイベント参加者数 (*1)	4,400 人 (H25 年度)	6,800 人	8,508 人 (達成)	10,000 人
スポーツ少年団加入率	12.2% (H26 年度)	13.5%	13.7% (達成)	10%
全国障がい者スポーツ大会出場者数 (羽島市在住・在学・在勤者含む)	2 名 (H26 年度)	6 名	0 名 (未達)	3 名
強化指定選手及び団体数	2 団体 (H26 年度)	3 団体	2 団体 (未達)	3 団体
全国レベルのスポーツ大会開催数	1 回 (H26 年度)	3 回	4 回 (達成)	3 回
体育施設の利用率 (*2)	76.5% (H25 年度)	83.0%	70.8% (未達)	75%
総合型地域スポーツクラブに加入している人数	-	-	1,471 人	1,950 人
1 日の運動・スポーツ実施時間が 30 分以上の者の割合	-	-	27.3%	35.0%
障がい者の週 1 回以上のスポーツ実施率	-	-	-	40.0%

(*1) 各スポーツクラブ主催のイベントへの参加者総数+各スポーツクラブ主催のスポーツ教室への登録者総数+各スポーツクラブに団体登録したスポーツ団体での活動への延べ参加人数

(*2) スポーツ・レクリエーション施設を市民が利用した日数/施設利用可能日数×100

羽島市スポーツ推進計画

平成 28 年 6 月

令和 3 年 6 月改訂

〒501-6241

岐阜県羽島市竹鼻町 2 2 6 番地 2

羽島市教育委員会スポーツ推進課

T E L : 058-393-4622

F A X : 058-391-0906

E-mail : sports@city.hashima.lg.jp